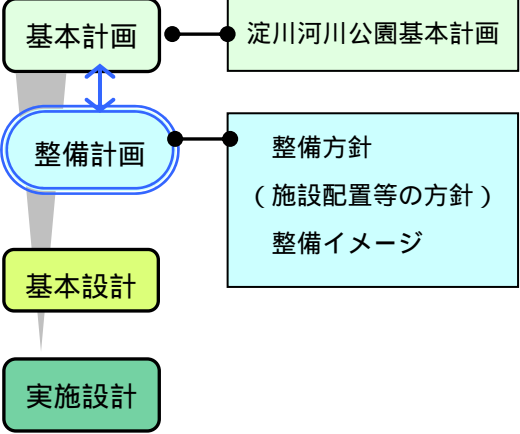


地区ごとの検討の進め方(案)

1. 地域協議会での議論の対象

淀川河川公園では、「基本計画」策定後、公園として整備する区域をいくつかの地区に分割し、地区毎に「整備計画」を策定し、各地区が担う機能や整備方針・整備内容を検討の上、「基本設計」「実施設計」を実施する方法を採用しています。

地域協議会では、この整備計画段階において、地区ごとの特性に応じた計画の検討や整備及び管理運営を行うための協議を行っていくこととします。



2. 整備計画の目的と検討方針

整備計画は、基本計画の趣旨に基づき、各地域及び各地区の特性を活かしつつ、「自然環境の保全・再生」と、「淀川らしい利用の推進」を図ることを目的とし、次の3つの方針から検討を進めます。

ゾーニング計画の実現に向けた検討

基本計画で定められたゾーニング計画（3つのゾーニング区分）を踏まえ、各地域及び各地区の現状を把握し、各ゾーニング区分に応じた公園のあるべき姿の実現に向け、検討を実施する。



淀川らしい利用の実現に向けた検討

自然環境と利用との調和、水への親しみ、淀川全体・川とまちとの連続性、景観・歴史など淀川らしい利用の実現に向け、検討を実施する。



多様な主体の参加と連携

整備及び管理運営において、淀川河川公園に関わる多様な主体の参加を求め、連携を図る。

その一環として、計画段階においても、地域協議会を開催し、多様な意見を聴き、反映させる。



3. 整備計画(案)作成の視点

自然環境の保全・再生と利用との調和に向け、「ゾーニング計画の実現」の視点から公園整備計画を検討します。

また、基本計画における淀川らしい利用の実現に向け、「魅力」「快適性」「つながりの改善」の3つの視点から、バランスの良い整備を検討します。

ゾーニング計画 の実現

淀川河川公園における「自然環境の保全・再生と利用との調和」を図る計画づくり

- ・ゾーニング計画と現状利用の調整
- ・地域ニーズの反映、等

魅力向上

淀川河川公園の川らしい「魅力」のある計画づくり

- ・自然、景観、開放感、親水性
- ・利用（動的・静的利用、現況・将来利用）等

快適性向上

淀川河川公園を訪れる利用者に「快適性」を感じ取ってもらえる計画づくり

- ・休憩施設や便益施設の整備状況
（過不足・老朽化・バリアフリーなど）
- ・適切な維持管理等

つながりの改善

淀川全体の連続性、川とまちの「つながり」の改善を目指した計画づくり

- ・上下流方向への移動のしやすさ、まちとのつながり、園内の回遊性、水辺へのアクセス
- ・ユニバーサルデザイン等